

米公共テレビの反ロシア・プロパガンダ・シリーズ（上）

【訳者注】PBS（アメリカ公共放送サービス）というのは、日本のNHKに当たるらしい。一昨日のNHKの「プーチンの野望」という番組は、見なかったが、これだったかもしれない。プーチンに野望があるとすれば、それは領土的野心というような、ケチなものでなく、「深層国家」を倒すことである。それは“野望”などでなく、神聖な使命というべきである。アメリカは自分が下劣だから、人も下劣だと宣伝し、自分がウソをつくから、人もウソをつくと宣伝している。

ここに訳した前半は、ロシアのウクライナ問題が中心になっている。ウクライナで2014年の2月に起こったのは“民主化”などでなく、アメリカの仕組んだクーデタであることは歴然としている。このサイトで、飽きるほどそれを取り上げている。（プーチン自身の説明：<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170616.pdf>）アメリカのビクトリア・ヌーランドという女性と、駐ウクライナ大使パイヤットとの、有名な、盗聴された陰謀電話が文字化までされて残っていて（2頁下）疑いようがないにもかかわらず、政府を含め、一般大衆はアメリカの宣伝を信じている。そしてクリミアはロシアが強奪したかのように信じられている。この基本的なことが誤解され、それが暗黙の前提にある限りは、現在の世界の本当の姿は見えてこない。

Rick Sterling, Consortiumnews.com

July 27, 2017

PBS が、集団ヒステリー的な、反ロシア・プロパガンダに参加した。これは5部に分かれたドキュメンタリー・シリーズで、ワシントンの新しい集団思考になってしまった虚偽の、人を騙すための公的な、危険な主張を、使いまわしするものである。

——リック・スターリング

米政府に支援された公共放送サービス（PBS）が、最近、「プーチンのロシアの内部」と名付けた5部のシリーズを放映した。毎晩、異なったテーマで、今日のロシアの現実の姿を見せるのだと称している。伝えられるイメージは、幅広い国家の抑圧、暴力、プロパガンダを特徴とする、非民主主義的なロシアというものである。次に紹介するのは、5部に分かれたこのドキュメンタリーの、重大な歪曲と虚偽のありさまである。

<http://www.pbs.org/newshour/tag/inside-putins-russia/>

エピソード1：「いかにプーチンが、ロシアの意味を再定義したか？」

このエピソードでは、ドキュメンタリーはこう主張する——

・ロシアのアイデンティティは“権力の投影”に基づくものだ。実際には、“権力の投影”はロシアよりも、遥かに強くアメリカを性格づけるものである。過去2世紀にわたって、合衆国は、大陸および地球上に広く拡大した。前世紀は、『転覆：アメリカ人の政権交代の世紀、ハワイからイラクまで』（*Overthrow: American's Century of Regime Change from Hawaii to Iraq*）という本に記録されている。アメリカは現在、70か国に、800近くの海外軍事基地を持っている。対照的にロシアは、かつてのソ連の外には、2か国——シリアとベトナム——に軍事基地をもっているだけである。

[https://en.wikipedia.org/wiki/Overthrow_\(book\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Overthrow_(book))



推計1,200万のロシア人が、2016年5月の3日間にわたって、全国で行われた“不滅の大連隊”のパレードに参加した。

・ウクライナ事変について肝心の情報を無視している。ロシアの、東ウクライナとクリミアへの関りが、“権力の投影”例として持ち出される。しかし基本的な事実が、このドキュメンタリーから省かれている。2014年2月のキエフでの暴力的なクーデタのことも、ジョン・マケイン上院議員や米国務次官ビクトリア・ヌーランドのようなネオコンたちが、ウクライナの選挙による政府の転覆を、支持し支援したことも、そこには言及されていない。2013年12月のスピーチで、ヌーランドは、彼女のウクライナへの強い関与を説明している——アメリカは「その援助に50億ドルを注ぎ込んだ」のだから、ウクライナは「ヨーロッパという未来」を選ばなければならないことなど。2014年2月のクーデタの数日前に、クーデタ政権の人事構成について、電話で計画を練っているのが盗聴されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=U2fYcHLouXY#t=504>

<http://www.bbc.com/news/world-europe-26079957>

・クリミアとロシアの歴史的つながり、およびウクライナ政権の暴力を無視している。このドキュメンタリーは言う——「2014年、クリミアにおいて、ロシアが分離主義者のリーダー

一を立てるように計らい、その者たちが大急ぎで国民投票を行い、それがクリミアの併合につながった」。これは、この決定がロシア政府のものであって、クリミア住民のものでないかのような印象を与える。

NY タイムズですら、2014年3月16日の報道でこう認めている——「言語と、何世紀もの歴史をロシアと共有する地域において、この結果が出るのは、離脱を問う投票が93パーセント以上の賛成を示す以前に、分かっていた結論だった。」

<https://www.nytimes.com/2014/03/17/world/europe/crimea-ukraine-secession-vote-referendum.html>

ドキュメンタリーは、クリミアの、キエフへの旅行者たちが、ウクライナの超国家主義者によって殴られ殺された後での、暴力の恐怖に言及していない。キエフのクーデタ政権の最初の決定の一つは、ロシア語をもはや公用語として認めないという宣言だった。クリミア人とのビデオ・インタビューを含む、正当な見方は、このビデオに示されており、それは PBS ドキュメンタリーの言おうとすることと、鋭く対立している。

<https://www.youtube.com/watch?v=loKajkXoTBU>

https://www.youtube.com/watch?annotation_id=annotation_2331644629&feature=iv&src_vid=mfgg_e7FIBs&v=S5En31xjLeY



ウクライナのアゾフ (Azov) 部隊メンバーのかぶるヘルメットに見られるナチのしるし。(ノルウェーの映画クルーが撮り、ドイツのテレビで放映された)

・ロシアの、NATO 拡大に対する反対が矮小化されている。このドキュメンタリーは、ロシア人が、彼らの国境へ NATO が拡張してきたことに“屈辱を感じている”と言っている。これは、深刻な軍事的憂慮を、主観的で感情的な問題へと歪曲するものである。2002年、アメリカは一方的に、「弾道弾迎撃ミサイル制限条約」から脱退し、核先制攻撃と連続して使うことのできる、ミサイル防衛システムの建設を始めた。ここ数年、NATO 軍とミサイルが、ロシアの国境に配置されている。もし、ロシア軍とそのミサイルが、カナダとメキシコのアメリカ国境に配置されたら、どういう反応が起こるか想像するとよい。

https://en.wikipedia.org/wiki/Anti-Ballistic_Missile_Treaty



2014年5月2日、ウクライナのオデッサでの、致命的な放火のテレビ画像。(RT ビデオより)

・オデッサにおけるクーデタ暴力が“誇張されている”と、間違った主張をしている。

ドキュメンタリーは、東ウクライナ市民を救援に行ったロシア人は、ロシアの“プロパガンダ”によって、「何ダースもの親ロシア分離主義者が、ウクライナのオデッサで死んだ」と信じ込まされているが、「ロシア・メディアはこの攻撃を誇張している」と言っている。現実には、オデッサの攻撃で、少なくとも42人が死に、100人が負傷している。[このビデオ](https://www.youtube.com/watch?v=s9AMjLBliw)は、平和な抗議者たちへの最初の攻撃から、建物内部での火炎瓶攻撃にいたる、事件の連続を示している。<https://www.youtube.com/watch?v=s9AMjLBliw>

エピソード2：「ロシアのプロパガンダ機械の内部」

このエピソードでは、このドキュメンタリーは――

・ロシア人は攻撃的で脅迫的だと言っている。ドキュメンタリーは、ロシアのTVキャスターで、(翻訳して) こう言ったという人を引用している――「ロシアは現実的に、アメリカを放射能の灰にすることのできる、世界で唯一の国家だ。…もしある人間を説得することができれば、あなたは彼を殺す必要はない。…もし説得できなければ、彼を殺さねばならないだろう。」我々は、翻訳によるこの言明のコンテキストも正確さも知らない。しかし、私自身のロシア旅行の経験から、また多くの他のアメリカ人の経験から言っても、このような言明は異様でロシア人らしくない。

民衆レベルでも政府レベルでも、ロシア人は、アメリカ人を「パートナー」と呼ぶように努め、平和とよりよい関係を求めるのが特徴である。第二次大戦で2,700万の人々が命を失ったので、ほとんどのロシア人は、戦争のもたらすものを強く意識し、深く平和を求めている。ロシア人は、二次大戦中の露米同盟を明瞭に覚えていて、友好的な協力関係に戻ろうとする。このフィルムの製作者は、多くのロシア人の表明するこのようなメッセージと、平和への願

いを、何度も聞いているはずである。しかしこのドキュメンタリーは、このロシア人らしくない攻撃的なメッセージを伝えている。

・ある民間TVネットワークのプロデューサーが、怒った大衆から批判されたのは、彼らが腐敗を暴いていたからだ、と間違っただけを言っている。現実には、大衆が怒りの反応を示したのは、そのテレビ局が視聴者に対し、「ソ連はレニングラード包囲の間に、命を助けてもらうために、ナチス・ドイツに降伏すべきだったと思いませんか？」という世論調査を行ったからである。

・RT（ロシア・トゥデーTV）は、ホロコースト否定者や、ネオナチを、好んで出演させていると間違っただけを言っている。これはグロテスクな歪曲である。RTを見ている人は誰でも、Chris Hedges, Larry King, それに Ed Schultz のような、アメリカ人のパーソナリティが、レギュラーとして RT に出ていることを知っている。国際問題についてインタビューを受ける人々は、政治的にいえば左であるのが一般的で、言われていることとは正反対だ。

・ロシアが、民主党全国委員会（DNC）とヒラリー・クリントンの E メールを、ハックしたという陰謀論を、無批判に繰り返している。この見解は、この E メールを公表した、ウィキリークスのジュリアン・アサンジによっても、Veteran Intelligence Professionals for Sanity によっても、否定されている。ある最近の法廷調査は、これはリークであってハックではない（局所的データ移動によってなされた内部犯行であって、インターネット上のハックではない）ことを確認し、“Guccifer 2.0” の存在を指摘している。これは推定“ハッカー”であり、ロシアを巻き込むために意図的に創り出されたニセモノである。

<http://www.cnn.com/2017/01/04/politics/assange-wikileaks-hannity-intv/index.html>

<https://consortiumnews.com/2016/12/12/us-intel-vets-dispute-russia-hacking-claims/>

https://en.wikipedia.org/wiki/Guccifer_2.0

・反クリントン社会メディアが、2016 年中に伝えたものの重要な部分は、ロシア政府のトロール（ネット荒らし）によるものだ、と間違っただけを言っている。ヒラリー・クリントンは、左翼、右翼の大部分から強く反対されている。おそらく何十万というアメリカ人が、反クリントン社会メディアのメッセージに賛同している。

・グーグル検索エンジンには、ヒラリー・クリントンに有利なように、バイアスがかかっていたことを示した研究は、“直ちにウソが暴かれた”と主張している。このドキュメンタリーは、検索エンジン・バイアスの潜在効果を説明した元の論文——信望厚い Proceedings of the National Academy of Sciences に発表された——を無視している。これを書いたのは、雑誌 Psychology Today の元編集長 Dr. Robert Epstein である。この研究の“ウソが暴かれ

た”という主張とは矛盾して、この学術論文は、グーグルのバイアスの効果を推量し、このバイアスは、選挙の後で取り除かれたと推量している。グーグルからの反応と、非常に浅薄な“Snopes”の“事実チェック”は、このリード文の著者によって、効果的に論駁されている。ネオ・マッカーシズム的な書き方で、このドキュメンタリーは、その見解を軽蔑し、それらはロシアのメディア“Sputnik”発表された後で、“ロンダー”されたと主張している。

<http://www.pnas.org/content/112/33/E4512.full.pdf?with-ds=yes>

[http://aibr.org/downloads/EPSTEIN et al 2017-SUMMARY-WPA-A Method for Detecting Bias in Search Rankings.pdf](http://aibr.org/downloads/EPSTEIN_et_al_2017-SUMMARY-WPA-A_Method_for_Detecting_Bias_in_Search_Rankings.pdf)

<http://www.zerohedge.com/print/572112>

・「ケネディ大統領は CIA によって殺されたという考え」は、ソ連の情報局 KGB によって「植え付けられた」ものと言っている。多くのすぐれたアメリカの本が、CIA 説を支持して書かれている——ニューオーリンズの地方検事ジム・ギャリソンの本から、デイヴィッド・タルボットの 2015 年の *Devil's Chessboard: Allen Dulles, the CIA and Deep State* に至るまで。CIA 説は KGB の“ニセ情報”に基づくものと主張するのは、もう一つのグロテスクな歪曲である。それは事実を明らかにするニセ情報ではない。それはニセ情報の一例である。

——以下、(下) に続く。